

日本人2型糖尿病患者において食物繊維摂取が血糖コントロール、心血管リスク、慢性腎臓病に及ぼす影響：福岡県糖尿病患者データベース研究

藤井，裕樹

<https://doi.org/10.15017/1441126>

出版情報：Kyushu University, 2013, 博士（医学），課程博士
バージョン：
権利関係：Fulltext available.



論文審査の結果の要旨

食物繊維摂取は2型糖尿病の治療に対する有用性が示唆されている。糖尿病は肥満や心血管系疾患、慢性腎疾患との関連が知られるが、食物繊維摂取が、これらの状況とどう関連するかに関する知見は定まっていない。

申請者は、2008年から2010年の間に福岡県糖尿病患者データベース研究に登録され、適格条件を満たす4,399名の2型糖尿病患者のデータを用い、食物繊維摂取量と1) 臨床的背景要因、臨床検査値、2) 1)を補正した上でのメタボリックシンドロームの指標、3) 1、2)を加味した慢性腎疾患との相関に関する横断的な検討を行った。食物摂取頻度調査票により推定を行った食物繊維摂取量を要因とし、従属変数との関連を重回帰分析あるいはロジスティック回帰分析により検討した。1)の解析において食物摂取とBMI、空腹時血糖、HbA1c、中性脂肪、高感度CRPの間に有意な負の相関を持つことが認められた一方、インシュリン感受性(HOMA 2%-S)、HDLコレステロールの間には正の相関が認められた。2)に関しては腹部周囲長、高血圧、メタボリック症候群の有病率は肥満の影響を考慮した上でも食物繊維摂取と負の相関を示した。3)ではアルブミン尿、eGFR、慢性腎臓病の有病率と食物繊維摂取との間にも負の相関があることを示した。

1)、2)、3)の知見は、日本人2型糖尿病患者において、食物繊維摂取が一貫して好ましい影響をもたらす可能性、ひいては食事指導等による介入が臨床上有効である可能性を示していると結論し、今後の介入研究への発展の重要性を示唆した。

以上の成績は Nutrition Journal 誌に掲載され、この方面の研究として意義有る成果であると考えられる。本論文についての試験において、研究目的、方法、研究結果についての説明を求めた。さらに、各調査委員より専門的な観点から各種質問を行い、概ね満足すべき回答を得た。

以上より、調査委員合議の結果、試験は合格であると判断した。